

# 風景の中で ⑨



## 海外でのレコーディング その2

図書館長 井上 郷子

コロナ禍が続いています。図書館でも、注意深く感染症対策を進めながら、学生の皆さんには十分に利用してもらいたいと願っています。学生の皆さんも、感染しないように気をつけるとともに、過労・ストレス・睡眠不足を極力避けてください。

さて、先回に続き、海外でのレコーディング（特にドイツ）の話です。今は、専門的な教育や訓練を受けなくても、基本的な機器と知識があれば、（質の良し悪しを問わなければ）誰でもレコーディングができる時代になっていますし、特に、コロナ禍の下で録音や配信の技術のレベルも上がっています。今後本当に何が中心になっていくかは注視すべきですが、とは言っても、プロの世界というものがありませんので、少し、そのあたりの話を続けようと思います。

先回、ドイツでの音楽原盤制作のやり方は、大まかに3つに分けることができます、とお話ししました。（1）公共放送とレーベルとの共同制作（コ・プロダクション）（2）レーベル主導の制作（3）楽団やソロアーティスト主導の制作、という3つです。私がドイツで経験してきたレコーディングは（1）のやり方ですが、この「公共放送

とレーベルとの共同制作（コ・プロダクション）」がなぜ行われているかということ、ドイツでは公共ラジオ放送での音楽中継がとても盛んである、ということが背景にあります。ARDドイツ公共放送連盟は、ベルリン・ブランデンブルク放送、バイエルン放送など、9つの地域の放送局で構成されていて、各地域独自にテレビ、ラジオ放送を行なっています。日本が首都圏、関西、北陸・・・別に放送局をもっている、という感じです。また、NHKにN響があるように、例えば、バイエルン放送ならバイエルン放送交響楽団というように、それぞれの放送局が専属の放送オーケストラや合唱団などを抱え、音楽面でも重要な役割を果たしてもいます。

そのような放送局とレーベルの関係はどのようなものかといいますと、CDのためにレコーディングした音源を、その放送局の番組で使用、放送する、ということです。例えば、私がレコーディングした音源は、ヘッセン放送や西ドイツ放送の番組で、CDとして発売される前に放送された、ということです。（次号に続く）

# 資料の部屋 ⑨

## トイピアノの世界に触れる

図書館嘱託職員 安田 りや子

「トイピアノ」に対して皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？おもちゃ？それとも楽器でしょうか？私にとっては、近所の女の子が持っていた憧れの「おもちゃ」でした。昭和時代、小さな女の子がいる家庭ではよく見かける玩具だったのです。

今回紹介する資料は、トイピアノの入門書『ようこそ！トイピアノの世界へ』です。トイピアノの歴史に始まり、アートな世界、買い方までが紹介されています。著者の優しい語り口調で書かれた文章を読み終わる頃には、トイピアノの基礎知識が身についている、そんな一冊です。私自身、単純に可愛らしさに魅かれて手に取った本でしたが、読み終わる頃にはトイピアノに対する概念が大きく変わっていました。

巻頭では世界のトイピアノが写真で紹介され、QRコードから音源サイトの映像や音を視聴することができます。音色の違いや音律の整い具合など、各メーカーの特色を比較しながら視聴するのも良いと思います。本文中ではそれぞれの歴史が文献と共にわかりやすく説明されています。日本での位置付けや生産

の歴史についても触れられています。

トイピアノによるアートな世界の紹介では、代表的な存在としてジョン・ケージの作品が取り上げられています。その1つである《Suite for toy piano = トイピアノのための組曲》のCDをいくつか聴いてみましたが、演奏者の解釈やトイピアノの個性差によって色々な雰囲気音楽が生まれ、とても興味深く感じました。整っていない不完全な感じが、トイピアノの魅力なのかも知れません。

この本で紹介されている楽譜や音源の多くは当館でも所蔵しています。図書館には皆さんの好奇心を満たすツールが豊富に揃っています。たくさん利用してくださいね。



『ようこそ！トイピアノの世界へ：世界のトイピアノ入門ガイドブック』  
飯田有抄著 カワイ出版 2020 請求番号●J137-397

やすだ りや子 ● 週末、里山ウォーキングをしています。日常の様々なことが浄化される感じが、音楽と似て心地良いです。